

門司港バナナの叩き売り研究会

中岡 重隆

『古き歴史の担い手のまち折尾』

折尾のまちと云えばまずは古き歴史のJR折尾駅、駅舎に一歩足を踏み込むと、一瞬時代の流れが止まって逆流しているかのような錯覚を感じるのは私だけだろうか？

ホームに立つと複雑な構造をした建屋、上階は鹿児島本線、一階には筑豊の石炭を若松へ運んだ筑豊本線、黒い煙を出しながら爆進する蒸気機関車を思い出す。私の古里もこの沿線上の田川郡にあり、中学生の頃を思い出す。

ではこれからはどのようにあるべきか。

現在折尾駅の改修工事が進んでいく内で歴史ある駅舎の一部をなんとか残して欲しい。

壊す事は簡単であるが、歴史

は二度と戻ってはこない。

折尾駅と堀川の歴史があつて歴史の重みが変わってくる。

ある賢人が云われたように

「古きをたずね、新しきを知る」まさにぴったりのまち。他方では学生のまちの代表的な存在価値のまち、一般市民と学生の縁を取りもつ「交流拠点・ゆめ広場」の働きも多いに大きい。

私自身なかなかゆめ広場へ参加できていないがこれを機会に再考したいと思います。



折尾神楽 夏越祭 鈴ヶ山

こすげ のりかず



なみかけ
瀧懸 はまゆう太鼓

中西 樹一

『フレスター祝50号』

フレスター50号発行おめでとございます。

高齢者や障がいを抱えている方と市民・学生との交流並びに折尾地域の発展に寄与され、「ゆめ広場」の事業も含め、関係者の皆様の弛まない姿には、頭が下がります。

折尾地域には、他の地域から羨む資源がまだまだ沢山あります。

まちづくりに関し、地域をスタジオAMに例えて「行政は施設管理・メンテナンス、住民はプレイヤーにもなるし観客にもなる。」というお話を最近聞きました。

住民の中には、スタジオAMに

行かない方もいらっしゃいます。

色々な方々がスタジオAMに足を運ばれるよう、フレスターが呼び水となり、観客が増えさらにプレイヤーが増えて、資源を有効に活用され折尾地域が他の地域の方々から憧れる「魅力的な活力のあるまち」へと発展していく事を願っております。

「瀧懸はまゆう太鼓」も和太鼓の演奏・指導を通して、高齢者・障がいを抱えている方・子ども達との交流を行い、活力ある魅力的なコミュニケーション形成に寄与出来るよう活動をしております。

芦屋町を中心に北九州市等で活動を行い、一昨年に続き今年も演奏回数が40回を越えました。

アプローチの仕方は異なりますが、微力ながら地域に貢献出来るよう活動を続けたいと思っております。

九州ソグナップ代表

矢野 和幸

『お互いさまの精神溢れる

ゆめ広場』

「ゆめ広場」開設式の司会をしたのがつい先日のように思い出されますが、あれから世の中は劇的に変わりました。

昨年のリーマンショックに端を発する世界同時不況は日本を巻き込み、本当に出口の無いトンネルの中を歩んでいるようです。

派遣労働者を「物」のように扱い、不要になれば切り捨てる。いつからこの国はこのようになってしまったのでしょうか？ 思いやりや支え合いという言葉は、もはや死語になってしまったのでしょうか？ いいえ、違います。ご存知の通り「ゆめ広場」は携わって

る一人一人の善意で運営されています。ここには、思いやりも支え合いも生きています。

私は会社を切り盛りする経営者です。もちろん自分や周りの人間が食べていくだけの利益は出さなくてはいけません。しかし、それだけで十分です。みんなが普通に生活を送れる、それって素晴らしい贅沢じゃないでしょうか？

近年、行き過ぎた個人主義から「自分さえ良ければ」という空気が蔓延しているように思えます。

スウェーデンでは、国民の7割ほどがNPOで生計を立てていると言われています。利潤の追求(自分さえ良ければ)を止めて、少しの幸せをみんなで分かち合っているのです。 私たちには無理な話でしょうか？ いいえ、私たち日本人もずっとお互いを助け合って暮らしてきました。

「お互いさま」という素敵な言葉を知っている民族です。今はそれをほんのちよつと忘れていただけだと思います。

「ゆめ広場」はそのことをちよつと思い出させてくれる空間です。まだまだ生まれての「ひよこ」みたいですが・・・ こんな「ひよこ」が強く大きく育ってくれることを願っています。50号パンザイ!!

『交流拠点・ゆめ広場』

= 折尾駅前、オリオンプラザ 1階 =

だれでも立ち寄り
交流の生まれるところです。

折尾を元気にしたいと思う市民の手で
資金も力も持ち寄って運営しています。

